”特殊ガラスと薄膜で光を科学する”

2024年度通期
（2024年4月1日～2025年3月31日）
決算説明会
岡本硝子株式会社
（東証スタンダード　7746）

2025年6月3日

Ⅰ 財務・業績の概況

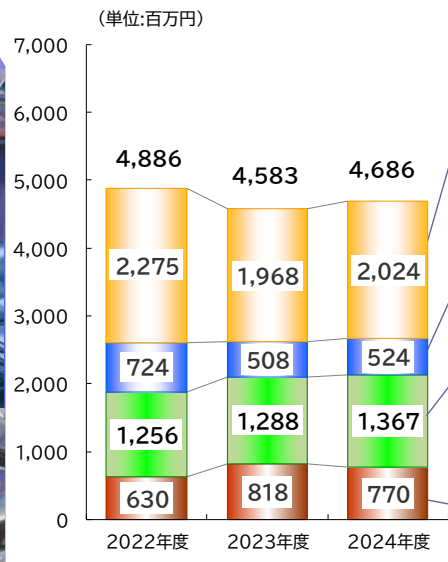
1. 損益計算書の状況
2. セグメント別売上高
3. 売上高・利益の推移
4. 貸借対照表の状況
5. キャッシュフローの状況
6. 2025年2月14日予想と着地

Ⅰ1. 損益計算書の状況

（単位:百万円・%）

	2023年度		2024年度		前年度対比	前年度比増減%
	金額	%	金額	%		
売上高	4,583	100.0	4,686	100.0	103	2.3
販売費及び一般管理費	1,395	30.4	1,448	30.9	52	3.8
営業利益	61	1.3	126	2.7	64	103.9
経常利益	146	3.2	84	1.8	△61	△42.1
親会社株主に帰属する当期純利益	101	2.2	89	1.9	△12	△12.7

Ⅰ2. セグメント別売上高



光学事業
売上:2,024百万円　前年度比 2.8%増収
セグメント利益:383百万円　前年度比 17.2%増益
プロジェクター用反射鏡　販売数量 19.3%増、金額 10.5%増
フライアイレンズ　販売数量 4.9%減、金額 2.8%減
プロジェクター需要が中国を中心に低迷したが、反射鏡は、サプライヤー及びその供給能力が減少傾向で当社売上高は増。

照明事業
売上:　524百万円　前年度比 3.2%増収
セグメント利益:△32百万円　前年度比 29百万円減益
自動車ヘッドライト・フォグライト用カバーガラスの売上増
外注費の増加により減益

機能性薄膜・ガラス事業
売上:1,367百万円　前年度比 6.1%増収
セグメント利益:　93百万円 前年度比 76.4%増益
ガラス偏光子の売上増、ガラス容器への加飾蒸着の売上減

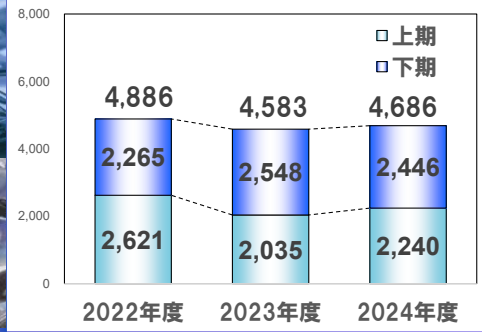
その他の事業
売上:770百万円　前年度比 5.9%減収
セグメント利益:180百万円　前年度比 8.8%増益

Ⅰ3. 売上高・利益の推移

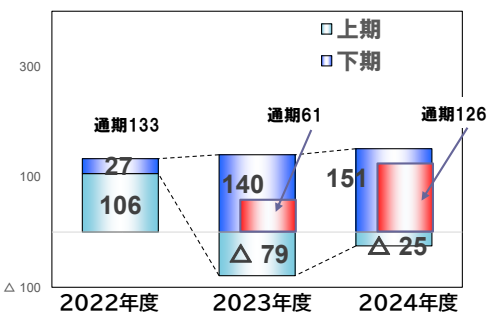
岡本硝子株式会社

中国における化粧品の消費低迷で加飾蒸着の売上高は減少した。
プロジェクター需要は、中国を中心に低迷したが、反射鏡は、サプライヤー及びその供給能力が減少傾向にあり、売上高は増加した。また、データセンター向け需要が急増しているガラス偏光子の売上高は増加した。
これらにより売上高、営業利益ともに前年度を上回った。

（単位:百万円）　売上高の推移



（単位:百万円）　営業利益の推移



Ⅰ4. 貸借対照表の状況

岡本硝子株式会社

（単位:百万円）

	2023年度末	2024年度末	前年度末対比
流動資産	4,123	4,191	68
固定資産	3,864	4,488	624
資産合計	7,987	8,680	692
流動負債	2,509	3,106	596
固定負債	3,784	3,769	△14
負債合計	6,294	6,876	582
純資産合計	1,693	1,803	109
負債・純資産合計	7,987	8,680	692

Ⅰ5. キャッシュフローの状況

岡本硝子株式会社

（単位:百万円）

	2023年度	2024年度	前年度対比
営業活動によるキャッシュフロー	337	370	32
投資活動によるキャッシュフロー	△473	△846	△373
財務活動によるキャッシュフロー	220	617	397
現金及び現金同等物期末残高	1,665	1,802	136

Ⅰ6. 2025年2月14日予想と着地

岡本硝子株式会社

（単位:百万円・%）

	2月14日公表予想		2024年度実績		予想対比	予想比増減%
	金額	%	金額	%		
売上高	4,750	100.0	4,686	100.0	△64	△1.3
営業利益	60	1.3	126	2.7	66	110.0
経常利益	30	0.6	84	1.8	54	180.0
親会社株主に帰属する当期純利益	10	0.2	89	1.9	79	790.0

【差異の理由】
・売上高は、2025年2月14日公表の予想値より減少。
・製造、販管の経費削減への継続的な取組み、第4四半期における複数のプロジェクト案件について見込んでいた費用が想定以上に削減できたことなどにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は予想値を上回った。

Ⅱ 2025年度について

1. 業績予想・株主還元

2. 主要な取り組み

（1）生成AIデータセンター向け製品
　① ガラス偏光子
　② 放熱基板
（2）次世代車載部品への展開
（3）コアコンピタンス【硝材開発】
　① 電子部品用フリット
　② ガラス封止蛍光体
（4）コアコンピタンス【精密成型】
　① 固体光源対応レンズ
　② 成型の再進化
（5）コアコンピタンス【薄膜蒸着】
　機能性薄膜とガラス封止蛍光体の複合化

Ⅱ1.業績予想・株主還元（1/3）

2025年度は新たに償却開始となる固定資産が1,098百万円。
（2025年4月に稼働したフライアイレンズ生産用ガラス溶融炉など）
→減価償却費が前年度比344百万円増加。
機能性薄膜・ガラス事業のガラス偏光子、放熱基板の販売増により売上高は増加するが、償却費の増加により営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、減少が見込まれる。

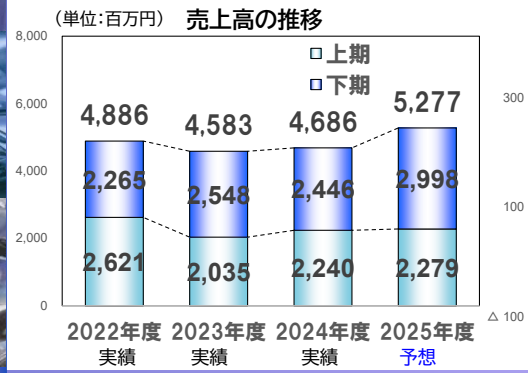
ガラス偏光子
生成AIの拡大によりデータセンターで使用される光アイソレータ用途のガラス偏光子の需要増。2025年12月より増設の生産ラインが稼働。

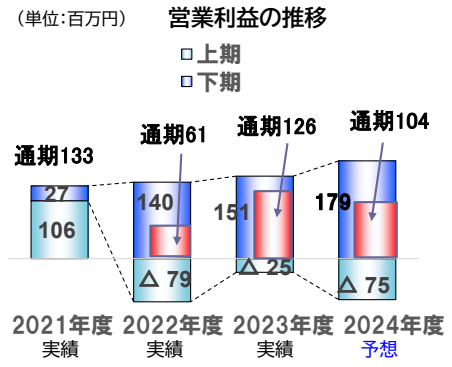
放熱基板
お客様仕様の製品を量産試作、認定作業が進行中。
2025年10月より量産出荷を見込む。

（単位:百万円）	2022年度 実績		2023年度 実績		2024年度 実績		2025年度 予想	
売上高	4,886	100.0%	4,583	100.0%	4,686	100.0%	5,277	100.0%
営業利益	133	2.7%	61	1.3%	126	2.7%	104	2.0%
経常利益	146	3.0%	146	3.2%	84	1.8%	38	0.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	214	4.4%	101	2.2%	89	1.9%	20	0.4%

Ⅱ1.業績予想・株主還元（2/3）

【上期】2025年4月よりフライアイレンズ生産用ガラス溶融炉が稼働。
　減価償却費が大幅に増加し、営業利益は赤字となる見込み。
【下期】2025年12月の増設ライン稼働によりガラス偏光子の売上高増加。
　放熱基板の売上高増加も見込む。
　これらの売上高増加により営業利益は黒字となる見込み





Ⅱ1.業績予想・株主還元（3/3）

株主還元

無償減資と資本準備金からの振替で
2024年9月に繰越利益剰余金（単体）の欠損金を解消
⇒今後は、適宜・適切な株主還元策を講じていきます。

配当

2025年度年間配当金予想は無配（2025年5月14日公表値）

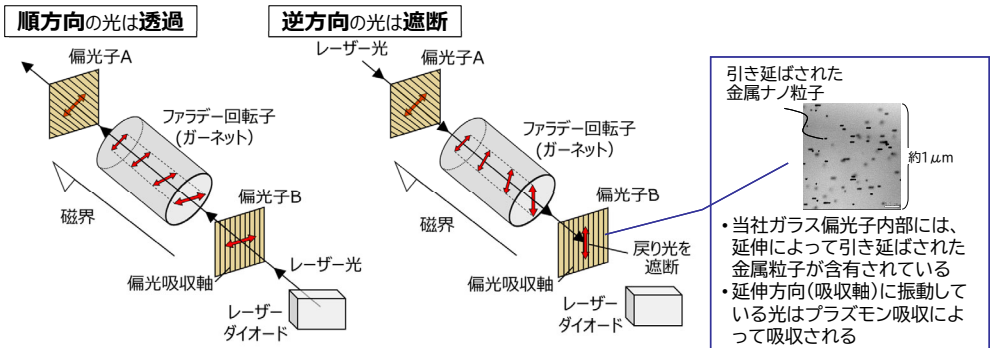
株主優待

2025年3月末に1,000株以上保有の株主へ
illumiiro公式オンラインストアで使える10%割引のクーポン券1枚
（6月末発送予定）

Ⅱ.2.(1)生成AIデータセンター向け製品 ① ガラス偏光子

光アイソレータに欠かせない岡本硝子のガラス偏光子

生成 AI に欠かせないデータセンターの建設が世界中で加速しており、そこで使用される光アイソレータ用ガラス偏光子の受注が拡大しております。キャパシティを超える需要に対応するため、設備増強によるキャパシティのアップを実施致します。



光アイソレータの動作概略図

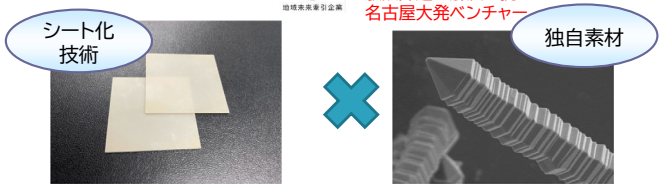
Ⅱ.2.(1)生成AIデータセンター向け製品 ② 放熱基板(1/3)

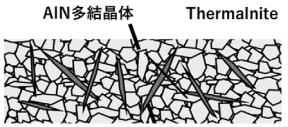
機械強度の高い放熱基板で脱炭素社会の実現に貢献していく

U-MAP社が開発した独自素材「Thermalnite」(繊維状窒化アルミニウム単結晶)を添加した窒化アルミニウム複合材料と、岡本硝子の持つセラミクスシートの生産技術を、経済産業省関東経済産業局「中堅・中小企業とスタートアップの連携による価値創造チャレンジ事業」への参画により本格的に連携開始

岡本硝子株式会社
特殊ガラスで世界トップシェアの地域未来牽引企業

株式会社U-MAP
繊維状窒化アルミニウム単結晶で放熱課題の解決に挑む名古屋大発ベンチャー





基板内部に柱状組織を実現することで、クラックの伸長を抑制し窒化アルミニウム基板の弱点である機械特性を向上させる

	従来品		開発品
	窒化ケイ素(Si3N4)白板	窒化アルミニウム(AlN)白板	Thermalnite添加 窒化アルミニウム(AlN)白板
熱伝導率	× 80~90 W/m·K	○ 170~200 W/m·K	○ ≧200
破壊靭性	○ 5~7MPa·m$^{1/2}$	× 2~3 MPa·m$^{1/2}$	○ 5~7MPa·m$^{1/2}$

従来品にはない
高熱伝導率と高強度の両立
を実現

Ⅱ.2.(1)生成AIデータセンター向け製品 ② 放熱基板(2/3)

■ 市場動向と顧客開拓状況

【窒化アルミニウム放熱基板の市場動向】

生成AI投資の増大による光通信用LD用放熱基板の需要が増加、車載IGBT基板、LED用放熱基板の需要も堅調に推移し、絶縁放熱基板の全体市場規模は2030年に2000億円に達する予測
(出典:Global Alminum Nitride Substrate Market Outlook 2023(QYR Research))

放熱基板の需要が大きく増加
- ✓xEV需要の増大
- ✓自動車の電装化（自動運転技術等）
- ✓5G通信網整備

→放熱性の向上で環境と安全に貢献

【想定される用途】
- ・自動運転技術の発展に伴い需要が増大するECU基板の放熱（特に振動の大きいバス等の商用EV車）
- ・パワー半導体を利用した車載センサーの放熱
- ・リチウムイオン電池の放熱
- ・ミリ波利用による通信基板の放熱
- ・ハイパワーLEDの放熱

【顧客開拓状況】

窒化アルミニウム白板	国内 8社 / 海外 9社
薄膜回路基板	国内 9社 / 海外 0社
厚膜回路基板	国内 7社 / 海外 2社
積層回路基板	国内 1社
TIMシート*	国内 1社 / 海外 8社
Thermalnite®*	国内 1社 / 海外 2社

* U-MAP社の製品を販売

Ⅱ.2.(1)生成AIデータセンター向け製品 ② 放熱基板(3/3)

■ 設備稼働状況等

- ・2023年8月　本社工場(千葉県柏市)に開発・製造設備設置完了。
- ・2024年11月　□2~4.5インチ基板の量産体制を確立。
- ・2024年11月　株式会社U-MAPと資本業務提携。

- ・窒化アルミニウム白板の170W品量産認定完了
- ・窒化アルミニウム白板の200W品認定サンプル評価進行中
- ・窒化アルミニウム白板を国内・海外の複数社にサンプル提供/顧客評価中
- ・窒化アルミニウム0.1mm超薄板基板を国内メーカーにサンプル提供開始
- ・マスターカードサイズ(7.5×5.5インチ)窒化アルミニウム白板の開発推進中
- ・熱伝導率230W/m·K窒化アルミニウム白板製品の開発推進中
- ・積層回路基板の開発推進中

Ⅱ.2.(2)次世代車載部品への展開

岡本硝子株式会社

「硝材」「成型」「薄膜」3つのコア技術を進化させ、次世代車載部品への採用を狙う

		対応する技術
ライティング	・独自成型技術G-injection®の進化で、**複雑立体形状／両面形状レンズ**を実現 ・固体光源に対応した**ガラス封止蛍光体**「PiG（Phosphor in Glass）」の提案 →国内Tier1から量産受注したADB用レンズ2種は25.下期より量産納入開始	硝材 成型 FP・GI 薄膜
センシング	・ADASに欠かせないLiDAR用**カバーガラス**と併せて、**近赤外線に対応した高反射ミラー**「Hi-Silver®」を展開。 →Tier1向けLiDAR用Hi-Silver®及び光学レンズ試作中。FMCW（周波数連続変調）等の次期方式に向けた開発に関し試作を納入、客先評価が進行中	硝材 成型 FP 薄膜
イメージング	・**ガラスと特殊薄膜の融合**で、内装デザインに合う次世代クラスターを実現 ・HUDに必要な各種形状の**反射ミラー等の光学部品**の展開	硝材 成型 FP 薄膜
インテリア	・成型による**立体形状を実現**し、ガラス特有の質感・重厚感に加え、**加飾技術**との組み合わせにより、ガラスの魅力を最大限に引き出し**他社との差別化を図る。** →国内Tier1候補17社と共に自動車メーカーへ売込中。新規引合案件1件の試作を受注	硝材 成型 GI 薄膜
UV（殺菌・除菌）	・快適な車内を実現する様々なウイルス不活性化や殺菌対策に**UV-C波長を最大限有効活用可能**な紫外線高反射膜、フィルター等を提案	硝材 成型 薄膜
電動化 全固体電池 その他	・xEV需要増大、自動車の電装化、コネクティビティ化に向け、**高い強度と熱伝導率を両立する放熱基板**を提案 ・安全な固体電池向けの**固体電解質**を提案 →固体電解質に加え電極活物の開発も推進、全固体電池材料を新規提案中	硝材 成型 薄膜

Ⅱ.2.(3)コアコンピタンス【硝材開発】① 電子部品用フリット

岡本硝子株式会社

5G/6G通信および半導体検査装置向けガラスフリットでDX推進に貢献していく

- 高周波・ミリ波通信デバイス用材料
- 半導体検査装置用材料

・5G通信用LTCCデバイス用ガラス粉末及びグリーンシート
・プローブカード用ガラス粉末

フリット拡販進捗状況('25年5月時点)

段階		件数
開発	共同開発案件	1社1件
引合受領	引合い受領 / サンプル出荷前	0 社0件
サンプル出荷	1次評価用サンプル出荷し評価中	2社2件
1次評価	材料初期評価合格	3社4件
2次評価	量産工程の品質確認合格	3社3件
増量試作	量産工程の品質ばらつき確認合格	0 社0件
材料認定	製品仕様・価格の合意	0 社0件
量産試作	顧客製品の品質確認合格	1社1件
量産	顧客製品の仕様・価格の合意	5社5件

当社製ガラスフリット(=非磁性材料)を使用したグリーンシート

Ⅱ.2.(3)コアコンピタンス【硝材開発】② ガラス封止蛍光体

岡本硝子株式会社

発光効率の高さなどから「青色LED+蛍光体」の白色光が広く普及

青色LED光で黄色蛍光体を光らせると発光効率が高く、LEDの素子数も少なくできる。
これまでは蛍光体を樹脂で封止することが多かった。

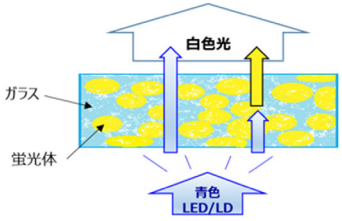
高輝度LED、LD向けにガラス封止体のニーズが高まる

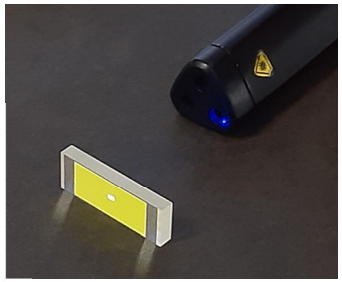
プロジェクター、車載などで高輝度が求められるようになったが、
樹脂では高輝度LEDの発熱、LDの高エネルギーに耐えられない。

お客様の用途やコストイメージに合わせたガラス封止蛍光体を開発中

・焼結基板(プレート)+印刷基板+ガラスフリット

●車載用:
1社1件 試作中
● PJ用:
1社2件 試作中
●照明用:
2社2件 試作中
●その他:
1社1件 試作中





青色レーザー光がガラス封止蛍光体を通過すると白色光となる。

Ⅱ.2.(4)コアコンピタンス【精密成型】① 固体光源対応レンズ

岡本硝子株式会社

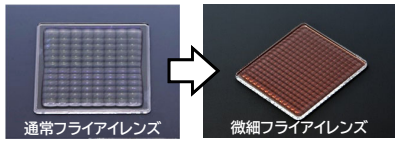
高精度・微細レンズ、複雑立体形状レンズの実現で、固体光源化等による顧客要求仕様変化に確実に対応

□ プロジェクター分野 ・・・ 高精度、微細化・小型化

これまでの使用目的(光の高密度化及び均一性)に加え、固体光源化に伴い拡散板(ディフューザー)用途も増加していくものと見られ、プロジェクターの小型、高精細という進化を含めて、レンズの高精度化・微細化への要求が拡大することを見込む

□ 車載分野 ・・・ 進化するヘッドランプと複雑立体形状レンズ

高出力LEDやレーザーの採用によるヘッドランプ光源の変化や、ADB(配光可変ヘッドランプ)、LiDAR等のセンシング機能をヘッドランプに組込む等のトレンドが今後加速していくものとみられ、複雑立体形状をもつガラスレンズへの要求が拡大することを見込む



レンズの小型化、セルの微細化、高精度化

G-injection®による固体光源用複雑立体形状レンズ(車載)

Ⅱ.2.(4)コアコンピタンス【精密成型】 ② 成型の再進化

コア技術　ダイレクトプレスの再進化

- ダイレクトプレス技術を更に磨きあげ、レンズの小型化、高精度化や微細化に注力
- 複雑立体形状成型が可能なG-injection®(GI)成型にて、高精度異形レンズを実現
- FP成型技術により、フライアイレンズの高精度化・微細化に対応

G-injection®		
非車載	試作品出荷	1社1件
	試作成型	1件

FP成型		
製法変更に伴う4M変動試作		4品種
非車載	試作成型	2社2件

LED照明系を使用する全ての機器に応用可能で、光利用効率向上・小型化等に効果を有す、当社製法にしか出来ない新たに特許取得した「高効率新導光体デバイス」も生産開始予定。

★FP成型では、製品1個当たりに必要な熔融ガラス量が削減可能
⇒製品1個当たりのCO2排出量削減　2025年4月　新炉/新設備試験稼働開始

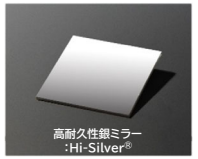
Ⅱ.2.(5)コアコンピタンス【薄膜蒸着】 機能性薄膜とガラス封止蛍光体の複合化

コア技術を融合し、固体光源化に対応する新商品提案

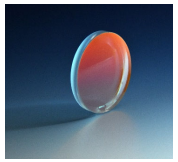
「Hi-Silver®」(反射型)に加え、新たにダイクロイックフィルタ(透過型)とガラス封止蛍光体「PiG」も複合化

薄膜蒸着技術と材料開発技術との融合により、プロジェクター・車載分野の固体光源化拡大に対応すべく、性能面とコスト面を両立。
各種ガラス商品を提案し、顧客ニーズに対応

広帯域高反射の高耐久性銀ミラー



様々な波長に対応したダイクロイックフィルタ

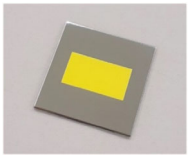


＋

耐熱・耐久性に優れるガラス封止蛍光体

⇨

反射型蛍光体プレート



透過型蛍光体プレート

複合化商品

Ⅲ. TOPICS (1/4)

TOPICS 1

■江戸っ子1号シリーズ
①音響灯台用：深海を航行するAUVの位置座標として海のGPSの役割を担う
②環境調査用：南鳥島沖水深6000mに堆積するレアアースの採掘における環境影響評価ツールとして活躍

■耐圧ガラス球シリーズ
①CCS(Carbon Capture & Storage:二酸化炭素の回収と貯留)
：CCSに最適な海底地盤を調査するプロジェクトへガラス球を供給

耐圧ガラス球

COEDO 13

商談状況

■ 江戸っ子1号シリーズ
音波しか届かない海底下で航行するAUVの正確な位置座標を知る術として、**江戸っ子を音波塔として設置し、データ通信技術の実証実験に対応中。**

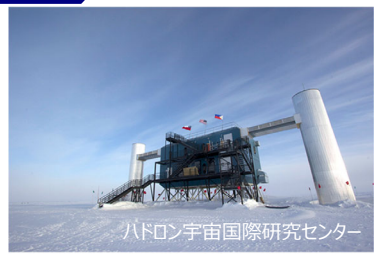
■ 耐圧ガラス球シリーズ
浮力・内蔵量共に最大の17インチ球で海底観測機器への採用を目指す。樹脂カバー"ハードハット"の自社開発を進め、**コスト競争力を向上する。**

ハードハット

Ⅲ. TOPICS (2/4)

TOPICS 2

南極IceCube計画に当社の耐圧ガラス球「D-Egg」が採用。従来の卵形の形状と比べ、**氷河への穴開け時の効率を向上させ、かつ、一球当たり複数個の光電子増倍管を搭載した「Gen2」の形状がほぼ確定し、「Gen2 Tall」に名称が変更。**



©Felipe Pedreros, IceCube/NSF

南極点でのニュートリノ観測を支えるガラス球

- 当社の耐圧ガラス球「D-Egg」は南極点下の氷中1,500～2,000メートルの深さまでドリルを使って掘られた穴の中に設置。
- 溶けた氷が再び氷になる時にかかる70Mpaの圧力に耐え、且つ、宇宙から飛来するニュートリノが大気中の粒子とぶつかった時に放出されるチェレンコフ光と呼ばれる紫外線を透過すべく、紫外域の透過率を向上させたオリジナル硝材を使用。
- 海外製はマイナス気温になるとガラス部分から放射線が発生し、観測時のノイズとなる事から、放射線が発生しない当社製への期待が高まっている。

Ⅲ. TOPICS (3/4)

TOPICS 3 放射性廃棄物のガラス固化

当社は、高レベル放射性廃棄物のガラス固化に使用されるガラス原料のビーズ(球体)化を目指し、ワークショップ*に結成実施当時から参画しております。
球体化したガラスビーズは、長さ数メートルの配管を通り、固化炉へ投入される仕組みとなっております。配管を詰まらせる事なく、固化炉へビーズを連続投入するため、粒径や形状が揃ったガラスビーズを製造する為の適正条件の確立を目指した試作開発を実施しております。

*高レベル放射性廃棄物の問題解決への取り組みが盛り込まれた「エネルギー基本計画」が2014年に閣議決定。この基本計画に基づく国家プロジェクト「次世代再処理ガラス固化技術基盤研究事業(メンバー:IHI,日本原燃、日本原子力研究開発機構、電力中央研究所)」と電気硝子工業会の間でワークショップを実施

Ⅲ. TOPICS (4/4)

TOPICS 5 ガラスプロダクトブランド illumiiro

➢ 「illumiiro」公式オンラインストア開設

「illumiiro」の公式オンラインストアを開設し、第一弾商品「yura glass」を販売開始いたしました。
当面は、EC販売によるブランド認知向上及び顧客接点の創出を図るとともに、将来的には、国内外販路の拡大やふるさと納税返礼品としてご活用いただくことなどを検討してまいります。

底面の丸みにより、ゆらゆらと揺れる

側面に120°ずつ施された3面デザイン

3面デザインから生み出される幻想的な影

5色のカラーバリエーション

光と匠

本日は当社説明会へ
ご出席いただきありがとうございました。
今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう
お願い申し上げます。

岡本硝子株式会社

(注)スライドに記載された当社の見通し、戦略等は将来の市場動向、消費動向、経営環境その他予測不可能な要素により、異なる結果となる可能性を含んでおります。このため弊社は今回発表した内容を全面的に確約する義務を負うものではありません。